



2019年11月13日

各位

会社名 株式会社エルアイイーエイチ
(コード番号 5856 東証第2部)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 常務取締役 田中 斉
(TEL. 03-6458-6913)

特別損失の計上ならびに2020年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年3月期第2四半期において、連結及び個別決算の特別損失計上、2019年5月15日に開示いたしました2020年3月期の第2四半期連結累計期間の連結及び個別の業績予想と本日公表いたしました実績値との差異、2019年5月15日に開示いたしました2020年3月期通期の連結及び個別の業績予想の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 固定資産減損損失の計上

教育関連事業が保有する固定資産につきまして、経営環境の悪化による収益の低下に伴い、今後の見通し及び投資額と投資期間全体を通じた回収可能額について比較検討した結果、119百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(2) のれんの減損損失の計上

教育関連事業の経営環境の悪化による収益の低下に伴い、今後ののれんの回収可能額を検討した結果、子会社である株式会社創育に係るのれんの減損処理を行い、65百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

2. 個別決算における特別損失の計上について

(1) 特別損失の内容

当社の連結子会社である株式会社創育の経営成績の悪化による影響と損失に備えるため、関係会社株式評価損 124百万円、貸倒引当金繰入額 454百万円をそれぞれ特別損失として計上いたしました。

(2) 連結業績に与える影響

上記の関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額は、連結決算において消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 業績予想との差異について

(1) 第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異（金額の単位：百万円）

2020年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（2019年4月1日～2019年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,243	47	47	39	0円45銭
今回実績 (B)	7,576	△353	△341	△538	△6円20銭
増減額 (B-A)	333	△400	△388	△578	—
増減率 (%)	4.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期第2四半期)	7,501	5	13	△543	△6円24銭

(2) 第2四半期個別業績予想数値と実績値との差異（金額の単位：百万円）

2020年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（2019年4月1日～2019年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利
前回発表予想 (A)	272	116	121	109	1円26銭
今回実績 (B)	271	95	107	△565	△6円50銭
増減額 (B-A)	△1	△20	△14	△675	—
増減率 (%)	△0.4	△18.0	△12.0	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期第2四半期)	369	164	171	157	1円81銭

(3) 業績予想と実績値との差異の理由

①連結業績について

売上高は業績予想を上回りましたが、営業利益、経常利益及び四半期純利益は予想を下回る結果となりました。

その主な理由といたしましては、売上高に関しましては、食品流通事業において、商品構成の継続の見直しやクレジットカード決済導入などの施策が効果的となり、343百万円予想を上回ったことなどが要因となり、連結売上高としては333百万円予想を上回る結果となりました。

営業利益に関しましては、食品流通事業で44百万円、酒類製造事業で11百万円それぞれ予想を上回るなど好調に推移いたしましたが、教育関連事業において、経営環境の悪化によって高騰した商品原価の計上及び新たな商品の製作コストが見込みよりもはるかに上回った事などにより営業利益として141百万円予想を下回ったほか、投資額と投資期間全体を通じた回収可能額について比較検討した結果、原価性のある制作費の償却298百万円を行ったことなどが影響し、連結営業利益としては400百万円予想を下回りました。

経常利益に関しましては、営業利益の影響を受け388百万円予想を下回りました。

四半期純利益に関しましては、営業利益ならびに経常利益の影響を受けたこと及び教育関連事業に係る減損損失184百万円の計上なども影響し578百万円業績予想を下回りました。

②個別業績について

売上高、営業利益及び経常利益は業績予想の範囲内でありましたが、四半期純利益については、連結子会社である株式会社創育に係る特別損失の計上578百万円及び税金費用として法人税等92百万円を計上したことなどによる影響で予想を下回りました。

4. 連結業績予想の修正

(1) 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	15,014	277	278	228	2.62
今回発表予想 (B)	15,347	△142	△129	△339	△3.90
増減額 (B-A)	333	△420	△408	△568	—
増減率 (%)	2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	15,465	154	168	△380	△4.37

(2) 修正の理由

売上高につきましては、食品流通事業、酒類製造事業などが堅調に推移していることなどから333百万円予想を上回る見込みです。

営業利益及び経常利益につきましては、当第2四半期連結累計期間において、教育関連事業における大幅な商品の製作コスト増加や、原価性のある制作費の償却を行ったことなどにより、営業利益及び経常利益の当初発表予想との乖離要因となっておりますが、第3四半期以降については、売上の減少は最小限に留まると見込んでいることや、大幅な製作コストがかかる商品の製作を抑制することなどから、当初発表予想への影響は軽微と見込んでおります。

以上のことから通期の業績予想の修正を行うものです。

営業利益では前回発表予想から420百万円下回り、経常利益では前回発表予想から408百万円下回る見通しとなりました。

当期純利益につきましては、営業利益及び経常利益の予想の修正のほか、当第2四半期連結累計期間に計上した教育関連事業に係る減損損失184百万円の影響などから568百万円予想を下回る見通しとなりました。

5. 個別業績予想の修正

(1) 2020年3月期通期個別業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	545	240	251	214	2.47
今回発表予想 (B)	607	243	260	△522	△6.00
増減額 (B-A)	62	2	8	△737	—
増減率 (%)	11.4%	1.0%	3.5%	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	740	336	348	△532	△6.12

(2) 修正の理由

売上高につきましては、関係会社からの業務委託料収入が増加する見込みのため、予想を上回る見通しとなりました。

営業利益及び経常利益については予想の範囲内となる見込みです。

当期純利益につきましては、当第2四半期連結累計期間に計上した株式会社創育に係る特別損失578百万円及び税金費用の影響などから737百万円予想を下回る見通しとなりました。

以上